

## 石狩平野横断地殻構造調査について

関係地区(夕張市)にお住まいの皆様へお願い

国立大学法人 東京大学地震研究所  
株式会社 地球科学総合研究所

東京大学地震研究所では、「日本海地震-津波調査プロジェクト」の一環として地震防災調査を実施いたします。

本調査は、断層等の位置・形状などを明らかにするもので、地震発生仕組みや地震に伴う震動を予測する上で重要であり、今後の防災対策を検討する上でも大いに役立つものと考えております。

つきましては、下記の要領で現地調査を実施いたしますので、関係地区の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

調査名：平成29年度「石狩平野横断地殻構造調査」

調査地域：北海道石狩市、当別町、江別市、南幌町、長沼町、栗山町、夕張市  
(詳細は裏面をご覧ください)

調査期間：平成29年 6月23日(金) ～ 同年 7月16日(日) (予定)

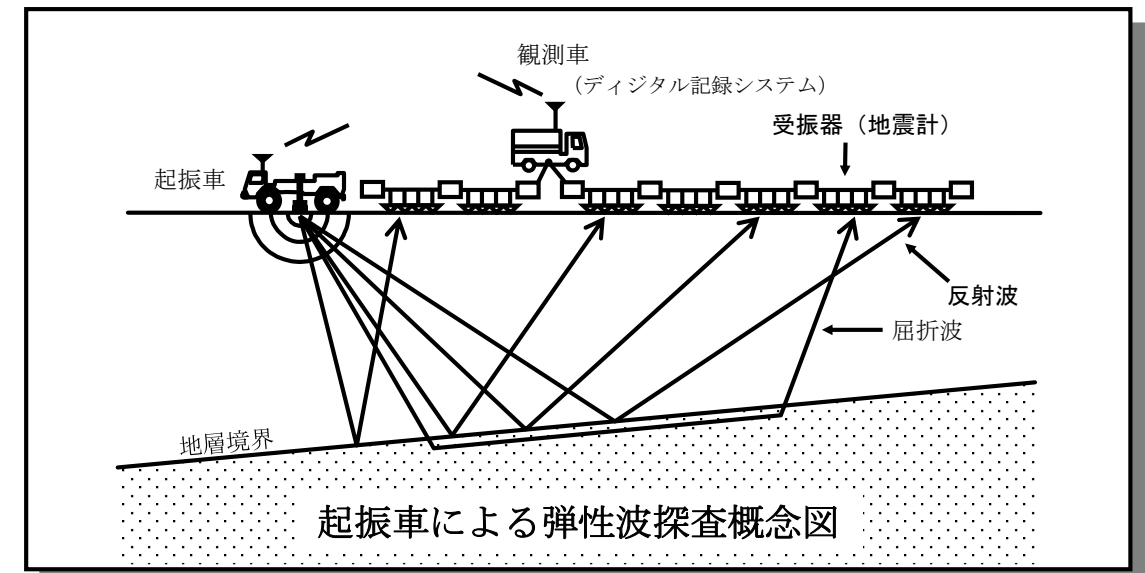
調査方法：バイブロサイス車を及び火薬を用いた反射法・屈折法調査

- 1) 測量作業： 測線となる道路の路肩等に50m間隔で木杭またはペイント等を用いて測点を標示し、測量を行います。
- 2) 受振器設置作業： 測線となる道路の路肩等に受振器(小型地震計)・観測装置を歩行者及び交通の支障とならないように敷設します。これらの機材は観測作業中、設置したままになります。
- 3) 観測作業： 調査測線に沿った道路で、起振車4台を使用し、約100m～150m間隔で約20秒振動を繰り返し発生させ、地下からの反射波や屈折波を受振器で観測します。  
火薬を用いた発振につきましては7月6日の深夜に計画しております。

調査に関する問い合わせ先：(株)地球科学総合研究所

現場担当 TEL 080-1000-6398 作業場長 井上 則之 (観測期間中のみ)

本社担当 TEL 03-5978-8026 計測グループ長 佐藤 紀男



### 起振車 (バイブレート車配置例)

起振車の近傍では、大型トラックの通過時と同程度の振動と、発進時と同程度の騒音が発生します。起振車の仕様は下記のとおりです。

全幅 ..... 2.4 m  
全長 ..... 8.4 m  
全高 ..... 3.2 m  
全重量 ..... 18.9 ton



### A/D変換装置 (例)

約50m間隔で、左写真に示したA/D変換装置を設置します。

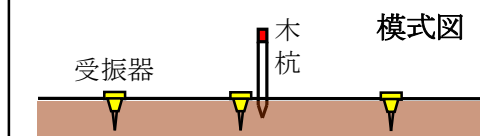
A/D変換装置の形状は下記のとおりです。

幅 ..... 7cm  
奥行き ..... 9cm  
高さ ..... 5cm

### 受振器 (小型地震計)

起振車によって生ずる弾性波を取得するために、道路の路肩部分に、右写真に示した受振器を設置します。受振器の形状は下記のとおりです。

幅 ..... 4cm  
高さ ..... 14cm



受振器を土中に刺し込み固定しますが、土の部分がない場合には、スタンドの上に受振器を乗せ、テープなどで路面に固定します。





調査測線



夕張郡 栗山町

夕張市

火薬を使用する発振位置

0 500 1,000 2,000 3,000 4,000 M 縮尺: 1:50000

平成29年度「石狩平野横断地殻調査」